

# 第 125 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：平成 27 年 10 月 29 日（木） 13：30～15：17

場 所：中央図書館 2 階多目的第 1 ホール

出席者：石本教育長 藤本委員 宇津委員 金本委員 花田委員（欠席）

事務局 山本部長 横田次長（教育総務課長） 佐々木課長 滝本室長

山根課長 島田館長 長見所長 渡邊課長 小田室長（欠席）

大崎分室長（欠席） 栗栖分室長 森下分室長 吉野分室長（欠席）

書記：小林係長 佐々木主任主事

## 議事

### 1 教育長報告

### 2 議題

(1) 浜田市教育振興計画審議会について

### 3 部長・次長・課長等報告事項

### 4 その他

(1) 浜田市立公民館職員に対するヒアリング調査の実施について（報告）

## 1 教育長報告

石本教育長

9 月は各小中学校で運動会、体育祭があり、その後、中学校は駅伝大会、修学旅行等があり慌ただしい 1 か月だった。10 月に入っても小学校の子どもたちは小体連の体操大会があり、運動会が終了した後も 4 年生以上の子ども達は練習を頑張っていたのではないかと思う。学校の先生方もこの間、県の理科教育研究大会が周布小学校、第三中学校で行われたので、以前より準備等もされていたということで、大変な時期であったと思う。合わせて同じ日に、中学校の保健体育の研究大会が浜田東中学校で行われたが、時間が重なったのでそちらの方は部長に出席してもらった。研究、勉強する場が秋になり出てきて、先生方もそういった面でも大変忙しい 10 月であったと思う。

### ①9 月 26 日（土）石正美術館名誉館長・石本正氏ご逝去

石正美術館名誉館長の石本正先生が 9 月 26 日にお亡くなりになった。こちらに連絡があったのは 10 月 2 日で、親族のみで葬儀、初七日の法要を済まされた後、連絡があった。

先生には、今年の 4 月に自宅の方でお会いしたが、まだ寒さ残る時期で絵を描く気持ちになれず、1 日座って音楽を聴いて

いるというお話をされていた。6月頃、市長がお会いしたいという事で連絡をしたが、体調が優れないので会えないという事であった。息子さんから4月以降絵は全然描いていないという事だったので心配をしていた。9月に入り再び絵を描きだされたようだったが、それも2週間くらいで描けないという事で、また1日音楽を聴きながら過ごす日々が続いたようである。朝娘さんが家に行かれたところ倒れておられ、不整脈による心停止という病名でお亡くなりになった。

石正美術館に何千点もの絵画の寄贈をいただいている。先生の想いをまた受け継ぎながら、子どもたち、地域の方々にそういったものを使いながら先生の想いを次の代へ繋げていかなければならないと思う。館長、学芸員の方も今後の取組を一生懸命考えておられる。

1月に先生を偲ぶ会を開く予定をしているので、詳しくはまた後程お話をさせていただく。

ご冥福をお祈りしたい。

#### ②10月1日(木) 教育委員会人事異動辞令交付式

教育委員会平成27年度新規採用職員正式採用辞令交付式  
浜田市職員永年勤続(30年)表彰

定期の人事異動があり、教育委員会は今年度2名の新規採用職員がおり、半年間の条件付き期間が終了し、正式採用という事で辞令を交付している。

また同日、永年勤続表彰があった。以前は10年、20年、30年と区切りごとに表彰があったが、近年は30年表彰のみになっている。教育委員会の関係では、石見小学校の主任用務員が30年という事で表彰された。

#### ③10月2日(金) 県教育委員会への要望(県教育庁)

藤原教育長へ、「市内県立高校のあり方について」という事で市長が行かれ、要望書を提出されている。その写しを添付している。高校の関係なので、所管は総務部になるが、教育という事で教育委員会も一緒になってこの話は続けており、説明をさせていただく。

資料の要望趣旨のところをご覧いただきたい。浜田市には県立高校が3校ある。浜田高校も現在は1学年6クラスであり、商業は1学年2クラス、水産高校は2クラスとなっている。基本的に1学年2クラスになれば、近隣の高校との統合を検討す

るのが県の大きな方針である。そういった話がいつ起こるか分からないので、先に浜田市として市民の皆様方に意見を聞く会議を昨年11月に立ち上げ、会議は4回開催した。中段以下に記載してあるが、3校は絶対に残さなければならないという強い意見と、将来的には3校あるものを統合しても止むを得ないのではないのか、子どもが減り部活動が出来ない等教育活動に支障があるのであれば統合をするべきであろうといったこの2つの意見に大きくわかれた。そういった意見を率直に県の方へ市長から伝えた。

2つの意見があるが、ではどうすれば良いかという部分が右側の方へ要望事項として記載してある。そこにあるように、再編の有無に関わらず、今ある各校はそれぞれもう少し魅力のある学校にして、生徒に市外の高校ではなく市内の高校に入ってもらえるよう取組をすべきであろうということであった。

浜田高校については学力向上に向けた徹底した取組を行い、具体的には、併設型の中高一貫高校といった考え方もあるのではないかと、全国の各所でそういった取組を行う中で、進学等の成果を上げている学校は数多くあるので、そういったものを研究し、取り組んではどうかという提案があった。

商業高校についても、情報処理科があるが、現在行っている教育が実際の社会ですぐ役立つものなのか、どうかという部分を含めて、少し学科や教育課程の見直しをすべきであろうという思いで、情報コンテンツ分野など時代に即応した学科の新設または改編という記載がある。

水産高校については、特色のある学校であり、水産高校は浜田と隠岐にしかないが、水産浜田の、今後の後継者育成という面からも、必ず今後も残してほしい高校の1つである。現在は県外の広島、山口からも来ておられるが、寮が満杯になっており、増設をしたがそれも一杯になりそうなのが実情であり、寮も含めて受入体制の整備を考えてほしいという要望をしている。

あわせて再編の計画をされる際には、地元の意見も十分参考にされ、慎重に判断して欲しいという意見、こういった内容を、10月2日の段階で市長が県の教育長へ要望されているのでご承知おきいただきたい。

④10月4日（日）浜田市合併10周年記念式典（石中央文化ホール）

式典は午前中にあり、坂根正弘氏が新たな名誉市民になられた。午後からは浜田の郷土芸能共演大会という事で、各地域に残っている田囃子、太鼓等の披露があった。

⑤10月10日（土）文化講演会『図書館を身近に 暮らしの中に』  
（石見公民館）

文化協会が主催で、島田館長が講師として『図書館を身近に暮らしの中に』という演題で講演をされた。私は出席出来なかったが、講演の内容の話は後で聞いた。

⑥10月11日（日）第47回浜田市美術展表彰式（世界こども美術館）

市美展の特別賞を受賞された方の表彰式が行われた。昨年よりも30点以上応募数が多かった。今年から正式に新たな項目で出来た現代美術という部門において、共同作品もあったが3名の方が応募された。絵や書ではない、現代美術という範疇の中で、立体的な大きな作品を作っておられ、目新しく良かった。この部門については来年以降も力を入れて取組たいということであったので期待をしておきたい。

⑦10月14日（水）浜田・江津地区学力育成会議（浜田合庁）

県と市町村の教育委員会で、学力育成会議というものを去年から作っているが、今までは県全体で集まる会議であったが、各教育事務所ごとに会議を行いたいという事であった。県内5か所の教育事務所があるので5か所ということだったが、浜田地区は三市三町で市町村数が多いので2つに分けさせて欲しいということで、大田、美郷、邑南、川本が1つのブロック、浜田、江津が1つのブロックとなった。その浜田・江津地区の学力育成会議が10月14日に行われた。県の教育長以下幹部の方が来られ、4月に行われた全国学力調査、学習実態状況調査の分析、今後の県の対応についての説明があり、意見交換を行った。

新聞報道等でも大きく出ているが、とにかく算数、数学が他県に比べて弱いというところで、そこに力を入れたいという説明があった。特に小学校については算数の授業の改善プロジェクトチームを立ち上げられ、現在各小学校の全て、10月の初旬から12月中旬の間に県の指導主事が指導に回られ、市町村に派遣をされている指導主事が一緒に学校へ行って数学の授業改善に向けての話をされているところである。

というのも、調査の中で点数が低かったという結果もあったが、算数の勉強が好きな子の割合が全国で最下位、算数の授業が理解できるかという内容も全国で最下位という結果があった。とにかく算数が好きにならないと点数も上がらない、そうするためには算数の授業が分からないといけないという部分の取組をこれから続けていくという説明があった。浜田市も県と一緒に頑張って取り組んでいきたい。

⑧10月16日（金）県理科教育研究大会浜田大会（周布小、第三中学）

約200人お集まりいただいた。

⑨10月16日（金）県中学校保健体育教育研究大会浜田大会（浜田東中学）

中学校のみなので少ないが60人位の方が集まった。公開授業があり、討論会を行ったという事である。

⑩10月19日（月）日本海信用金庫・校庭芝生化学業寄附贈呈式（国府小）

市内の小学校の芝生化は、現在周布小学校、長浜小学校、今回3校目で国府小学校が芝生化になった。それぞれ芝生化にする時に、日本海信用金庫が応援をしたいという事で、周布小学校の時には移動型のスプリンクラーと芝刈り機の寄附をいただいた。長浜小学校と今回の国府小学校には市で用意した芝刈り機を収める金額的には50万円程度の立派な倉庫を寄贈していただいた。周布小学校、長浜小学校、国府小学校と寄贈をいただいております、今後芝生化をされる学校があれば、同じように日本海信用金庫としては協力したいと話をいただいている。

⑪10月22日（木）～23日（金）平成27年度中国都市教育長会総会及び研究協議会（倉敷市）

文部科学省から来られ、参事官の方がコミュニティスクールについて話をされた。全国大会の時も文部科学省から来られ、コミュニティスクールは全国の全ての学校に取り入れたいと思っているという事であった。ただ、現実の問題では難しいのでモデル校を指定しながら少しずつ取り組んでいきたいということであった。

懇親会の時に、席が近かったので率直な意見として「コミュニティスクールは、地域と学校が上手く連携が取れていない地域には有効な手段ではあると思うが、田舎で既に学校と地域が

上手く連携し合っている地域にとってはメリットがないと思う」と伝えた。そうすると、「そうではない。確かに、学校支援地域本部事業を通じて地域と学校との繋がりは深いかもしれないが、それはあくまでも個人と学校の繋がりである。このコミュニティスクールになった場合は組織として学校と関わるという事なので、そういった繋がりを継続していくためには、組織と学校という構図を作らなければ、個人と学校の繋がりで弱いのだ」という話をされた。

いずれにしても文部科学省は、コミュニティスクールを今後全国的に広めていく思いが強いと感じた。このことについても勉強をしていかなければならないと思う。

⑩10月26日（月）浜田市社会教育委員の会・建議

会長の富金原委員と、副会長の栗栖委員が来られ申し入れをされた。毎年、社会教育委員方と教育委員方の意見交換会を年に1回開催している。またそういった場で、思いの確認をしたり、意見交換をしたりとしていただければと思うが、お手元の資料に上がっている7点について建議という事で思いを教育委員会の方へ伝えて、可能な限り善処してほしいという事で提出された。具体的な内容の説明はしないが、資料に目を通してもらえればと思う。

以上で、先月の定例教育委員会以降1か月間の報告をした。今の報告のところで、質問はあるか。

質疑応答

藤本委員

10月16日に理科教育研究大会があったが、私は理科教育の必要性は以前から言われているので三中へ行ってきた。

非常に熱心に授業をされていたと思う。私が研究会に行く場合は2つ視点を持って行くようにしている。1つ目は先生の授業力について。2つ目は、児童、生徒がどのような表情で授業を受けているのかを視点にして参加している。第三中学校は1クラスに35名いたが、後ろの席は声が聞こえなかった。先ほど算数、数学の授業の話も出てきたが、以前から授業力というもの大きいと思っている。子どもたちをひきつける魅力的なものがないと、ぼーっとして考えているような姿勢であれば、それは本当に理解をしながら授業を受けているのかという疑問を抱く。

私はそういった2つの視点で研究授業へ行くが、いろんな視点

	<p>はあると思うが、授業をする先生は気合を入れてやってほしい。淡々と授業の時間を流すのではなく、力点を持ちながらやってほしいと感じた。</p>
石本教育長	普通のクラスではなく理科室とか特別教室か何か。
藤本委員	そうである。特別教室である。
金本委員	3年生は特に多かった。
藤本委員	35人いたが周りが静かなのでそんなに大きい声をしなくても聞こえると思う。後ろの方は聞こえていないなと思った。
石本教育長	研究授業の時は結構ザワザワしていることがあるので。
藤本委員	あの人数に声が吸収されることもあるかもしれないが。
金本委員	先生が工夫されて、太陽と地球に動きを付けて1人ずつ発泡スチロールでやられたので、個人の活動というものはすごくあったが、子ども達は人の意見を聞くことが難しいのかなと思った。
石本教育長	滝本室長、感想はあるか。
滝本室長	私は小学校に居たので、様子が分からない。
藤本委員	担当された先生は、県下の研究授業であるので一生懸命されたと思ひ尊重する。しかし、淡々と進めて、かなりの生徒があくびをしていることもあり、金本委員が言われた1人1人に教材を渡して工夫をされていたが、片方は授業力の問題、ひきつける力の問題ではないだろうか。もっと工夫がほしいと感じた。
石本教育長	また機会があれば伝えたい。
	そのほかに質問はあるか。
	この間委員方には、幼稚園の訪問、小体連の体操大会等あり、9月10月はかなりお出掛けいただいている。
	私は三隅小学校へ行ったが、1クラス32人児童がおり、先生方も20数名おられ、教室の中がいっぱいだった。子どもたちはグループで一生懸命話合いをして授業をしていた。
藤本委員	先生同士のグループ討議に3人位しか居なかった。野藤議員、上野議員がおられたが、2人は先に帰られた。
宇津委員	うれしい話のある中学校で聞いた。授業は2年生だったが、3年生のあり様についての話が校長室の中であった。今の3年生が小学校の時、とても手を焼いたが、現在は成長をしてくれたと校長先生から聞いた。中学校に入ると2年生が一番いけずな状態で、悪くすると3年生がもっと悪くなる可能性がある時に、3年生が良くなっていっているという事で、そういうことがだんだんと積み重ねられて伝統になると良いねという話をした。そういった成

長している事を聞くと嬉しくなる。何がそうさせたのかというと、やはり先ほど言われた指導力、あの担任の先生がいてくれたからかもしれないという表現になるかと思う。

石本教育長

現在の3年生は、小学校の時から色々大変な学年だったと聞いている。今の3年生が1年生になったとき、赤ちゃん登校日という授業があったが、これはここでやるしかないということで実施した覚えがある。

その他に質問はあるか。

各委員

特になし。

## 2 議題

### (1) 浜田市教育振興計画審議会について（資料1）

小林係長

これは委員方には先に話をしているものを改めて報告するものである。資料の波線の部分が、以前の計画と変更になった部分である。計画の構成、委員構成、計画期間、諮問内容等、基本的な部分は変わっていないが、市の総合振興計画と関連付ける関係から、その体系等の変更によって、例えば1番目の計画の構成については、市総合振興計画の将来像という部分が、最初は基本方針となっていたが、市の総合振興計画は基本方針が体系の中から外れたので、ここは将来像からというような感じで、市の総合振興計画の変更に伴ってこちらの書きぶりを変えているところ。教育大綱については、後程詳しく説明をする。概要のみご覧いただければと思う。基本的な部分について変更はない。

今回の特徴は、実施計画、アクションプランの性格を持つ計画にするということで、諮問内容についてもその旨を示して審議いただくことで考えている。

2番の委員構成は15名以内という事で、資料を1枚めくっていただくと、今回（案）となっている方々に今回委員に就任していただく予定としている。従来に比べ、文化財、スポーツの分野の関係、そのほか経済団体等からも出ていただき、幅広く意見を伺おうという形で委員の構成等については若干変更している。

計画期間については6年間という事で、平成28年度から平成33年度まで、市の総合振興計画の前期基本計画と合わせ、またこの周期については平成33年度については教育大綱の期間と合わせる事としている。

諮問内容については、アクションプランの策定を諮問という形

で、諮問書については事務局の方で内容を検討し、諮問をする予定である。

5番のスケジュールについては、日程が若干ずれてきている状況である。第1回の教育振興計画審議会を11月としているが、現在、委員方の予定を把握していく中で、11月中旬ぐらいを予定している。その後、第2回、第3回という事で、その間にパブリックコメントを予定としているが、その都度、必要に応じて議会等への概要説明、中間報告、校長会等へも報告、説明を予定している。

資料1枚目裏面の各種計画という事で、国の教育振興基本計画、島根県のしまね教育ビジョン21、浜田市の浜田市総合振興計画、またここに浜田市教育大綱を加えて、こういった各種計画等と連動した形で教育振興計画の策定を予定している。

2枚目裏面が浜田市教育振興計画審議会規則という事で、既に振興計画の審議会の設置を予定しており、初日で委嘱を予定している。基本的な考えで承認をいただければと思うので、よろしくお願ひしたい。事務局からは以上である。

石本教育長

教育振興計画の審議会についてとあるが、1の計画の構成のところは、今までも説明はしていたが、教育大綱が出来るので、それを基本理念として掲げて作成をするということで、実施計画については、アクションプラン的な実施計画を作成するような構成を考えている。委員構成についても、15名の委員方であるが、了解をいただいているのか。

小林係長

内諾はいただいている。

石本教育長

教育関係に限らず、幅広い分野から選出をして意見をいただきたいという説明であった。前回は公募という事もあったが、実際に応募された方は1名である。

前回はそうだった。

小林係長

今回は公募を取りやめるという事である。

石本教育長

期間については平成28年度から平成33年度までで、市の総合振興計画の前期計画の期間に合わせるという事で、この辺りも以前説明があったところである。

スケジュール的には、少し遅くなっているが、11月の中旬には第1回の審議会を開きたいといったような説明であった。説明があったところで質問等があればお願ひしたい。

質疑応答

金本委員  
石本教育長  
小林係長

11月と2月の波線は何か。

これは多分前回と変更があった部分であると思う。

1月の調査会の波線については、前回の資料では中間報告という事を入れていなかったが、議会に中間であっても報告が必要ではないかということで加えている。その関係もあり、1月の調査会での報告を行うと、1月中での第3回の審議会が開けないという事があり、第3回審議会・答申については2月に行いたいという事で、若干その部分が最後の日程的には厳しくはなるが、月が遅れて実施したいという事を思っている。

石本教育長

1月のところで、総務文教調査会の中間報告を入れるために、第3回がずれ込んだ。それで波線が入っているという事か。

小林係長

そうである。

石本教育長

審議会で、当然検討していただくが、定例教育委員会で決めるのは、議会に報告する前なので、2月の定例教育委員会で行うのか。

小林係長

定例教育委員会の都合がつかなければ、臨時会を行う。2月の答申を受けてからということになるので。

石本教育長

2月の答申を受けた後、議会に報告をする前のところで教育委員会で議会決定をしなければならない。毎月定例教育委員会があるので、その都度進捗状況については事務局から報告してもらいたい。

各委員

その他に質問はあるか。

石本教育長

質問なし。

この件について承認いただけるか。

全会一致で承認。

3 部長・次長・課長等報告事項

山本部長

平成27年12月 定例会日程（見込み）（資料2）

12月議会定例会が11月30日開会され、1日から4日までの4日間で個人一般質問が行われる。7日が議案質疑、8日総務文教委員会、11日予算決算委員会、最後16日が表決という事になる。

この前段で、11月9日（月）、10日（火）の2日間で臨時議会が開催される。議長、副議長、各委員会が2年間で交代され、新しいメンバーになる。12月議会、各委員会メンバーが変わ

石本教育長

る。

補足であるが、11月9日、10日の臨時議会に、教育委員の同意について議会へ提案する予定にしている。花田委員には2年前の9月から教育委員をしていただいているが、野藤委員が途中で辞められた関係で残任期間ということで、2年余りの任期で今年の11月18日で任期が終わる。また新たな期間、花田委員に教育委員をお願いするという事で、臨時議会で提案をするものである。

横田次長

行事等予定表（10月29日～11月30日）（資料3）

この間は、色々なイベント等が目白押しである。資料には標記はないが地域では、さざんか祭り、BB大鍋等の大きなイベントも予定されている。学校関係では幼稚園、小学校、中学校では生活発表会、学習発表会、文化祭等もこの日程の中に組み込まれている。学校教育課より、学習発表会の日程一覧表を別途配布しているので、参考にしていきたい。

11月2日の13時30分から15時30分、教育大綱の関係で第2回総合教育会議を予定している。

教育長が11月5日（木）から6日（金）まで、第12回「B&G全国教育長会議」で東京へ出張する。

委員方にも案内があると思うが、11月10日（火）浜田市小・中学校連合音楽祭が石央文化ホールで開催される。

11月21日（土）島根県立浜田商業高等学校創立50周年記念式典が50年の節目ということで、石央文化ホールで開催される。

11月22日（日）開府400年記念プレ公演会が文化振興課主催で県大のコンベンションホールで開催される。

日程の中で、文化祭、生活発表会、学習発表会が各学校で予定されている。ご案内があると思うがよろしく願いしたい。

山根課長

地域課題の解決支援（地方創生）事業報告書〈中間報告〉  
～「郷」を育てる公民館～（資料4）

今年度、生涯学習課では国の交付金事業である地方創生事業を各公民館において実施している。その各公民館、これまでも県事業で地域力醸成プログラム、あるいは昨年度は市の単独事業で地域課題の解決支援の事業を実施しているところだが、今年度は地方創生事業をいただく事が出来たので、各

公民館で実施したものについて中間報告という事でまとめてさせていただいた。

1 ページめくっていただき、取組という事で記載があるが、地域住民の自立に向けた意識を高める、地域住民一人一人が当事者意識を持って能動的に行動していただくという事が主なねらいになってくると思う。

公民館では、学級・講座を実施することで地域住民の学習ニーズに応え、地域住民間の絆を築くとともに、各地域のコミュニティの形成にも寄与することで社会教育の中核を担っているところである。

これまでも、課題解決事業には取り組んでいるが、こうして改めて国でもこういった事業を示されているので、丁度良い機会であり、特別に事業として計画をしていただいたもの。

資料3 ページに、実施した各公民館の一覧表を載せている。○印のある公民館が、地方創生予算事業を実施した公民館であるが、この事業以外にも、それぞれの公民館で活動費を使って地域課題解決支援事業の取組を行っている。ということで全公民館が、こういった地域課題の事業には取り組んでいるという事である。

4 ページ目からは各公民館で取り組んでいる課題解決の項目、内容、地域の課題を公民館で取り組んでいるPDCAサイクルに基づいた中間報告なり、整理したものである。

6 ページのところには、浜田公民館の例だが、このPDCAの項目以外にも、この事業に取り組んだ中でのエピソード、職員の働きかけ、地域課題解決への効果や今後の解決に向けてという事で新たなページを設けてそれぞれ書いている。以下、色々な項目に対して公民館がそれぞれ地域の特色を生かして取り組んだ結果をまとめている。またご覧いただきご指導をお願いしたい。

渡邊課長

浜田市合併10周年記念事業 浜田開府400年記念プレ講演・座談会（チラシ）

教育委員方には案内をお送りしており、返事をいただいている委員もおられところだが、改めてご案内をさせていただく。日時は11月22日（日）、三連休の真ん中であり予定等あると思うが、どうぞ足を運んでいただければと思う。場所は県大のコンベンションホールで、13:00から16:40を予定している。

栗栖分室長

この講演会のテーマは、「浜田藩の成立と終焉 そして未来へ」という事で、知られているようで知られていない浜田藩の成立と終焉についてそれぞれの専門家の方にお話しいただき、意外に知らなかった真実に気付いていただき、今後に向けて色々と考えてもらえればという気持ちでこの講演会を考えた。

後半には座談会を予定しており、コーディネーターに久保田章市市長が出演される。1時間半ほど予定しており、色々な話が出て来ると思うので皆様、是非お越しいただきたい。また終了後には、交流会を県大のビューラインで予定している。

①「2015 森づくりは海づくり in 浜田」の開催について（資料 5）

先日、10月24日に旭インターを出た所にある、地域交流プラザまんてんを主会場に式典が行われた。森づくりは海づくり in 浜田という事で、各自治区を持ち回りで回っており、今回旭自治区で行ったもの。いわゆる森が雨水をしっかりと吸い、それを浄化して川に流していくと、ミネラルたっぷりの水を含むため、良質のプランクトンを魚が食べに来るという事で美味しい魚が食べられるという事から行っているものである。新しく旭小学校が出来ると、そのグラウンドの横の山でヤマザクラ300本の植樹を今市小学校の児童、保護者、関係者で行ったというもの。今後、ここの手入れをしていくことは大変な作業になると思うが、子ども達も張り切って植えていたので、こういった成長を見守りながら、また、桜の名所になってくれれば良いと思う。

②旭なごみ体操クラブについて（資料）

報告、今後の検討をお願いしたくお配りした。現在、旧浜田高校の今市分校の体育館を活用し、なごみ体操クラブというものが開催されている。この体育館は、元々浜高にあった体操の器具を譲り受け常設して行っている。指導者の前田さんは、アトランタ五輪の日本代表選手であった。そういった方がダイレクトで指導をしてくださるという事は全国的にもなかなかないのではないかと思う。資料に経緯とあるが、たまたまのことであるが、前田さんのご家族がIターンをして来られ、現在は地域に根差しておられ、その中で、体操を指導されている。当初は、旧木田小学校で行っていたが、人数も増えてきて今の場所に移って行っておられる。現在の状況だが、人数は資料にある通りだが、旭自治区の子が多いが、金城、浜田からも通って

いる。資料に指導種目を記載しており、その内容を教えておられるが、選手クラスになると、驚くくらい子ども達のレベルが高い。小学生にしても色々な大会に出ても良い成績を出している。裏面には練習風景や、男女ともに良い成績を納めていることを載せている。

ただこれは、まだはっきりとした位置づけもない中で活動されており、是非ともこういったものをしっかりと位置づけをされて、子ども達も保護者も安心して練習に参加していただけるように協議をいただけないかという事で状況を出している。現在は、浜田高校とこの場所しか常設の設備がないので、そういった所も考えていただきたいと思います。

森下分室長

第 27 回弥栄スポーツ大会について（資料 6）

10 月 11 日に行った弥栄スポーツ大会について報告する。この大会は、毎年体育の日前後の日曜日に地区体協主催で開催され、今年が 27 回目になる。形式としては、各自治会が単独もしくは連合してチームを編成する自治会対抗の形式で行われ、弥栄町唯一のスポーツイベントである。当日、朝方雨も降る空模様ではあったが、予定された種目を全て終えることが出来た。中ほどにも記載があるが、年々参加人員が少なくなるため、昨年参加者を少しでも多くしようと「カップ」と「バウンスポール」という種目を新たに追加した。今年も弥栄小学校の体育館改築のため、会場確保に頭を悩ませ、弥栄会館の研修室を使用して行うようにしたが、申し込みチーム数が極少だったため、取り止めをせざるを得なかった。参加チームは資料にあるとおりで、総勢 365 名の参加であった。全盛期には、700 名近い参加者で実施して丸一日使っても夕方までかかるという状況があった時期もあったが、少子高齢化が進み参加者も半減しているため、今後の運営をするにあたって大きな課題になっている事が実情である。こういうふうな状況なのでこれをどうしてスポーツに親しんでいただけるような形に継続していけるかという事が課題になっている。

石本教育長  
佐々木課長

学校教育課から何かあるか。

平成 27 年度学習発表会等日程（資料）

幼稚園、小、中学校の生活、学習発表会、文化祭の日程表をつけている。表面は小、中学校ごと、裏面は日程ごとになっている。1 点訂正があるが、日程ごとの三段目に金城中学校

があるが、11月2日（月）になっているが、11月7日（土）の間違いであるので訂正をお願いしたい。

石本教育長 金城中学校が11月2日になっているが7日（土）が正しいという事で良いか。

佐々木課長 そうである。表面が正しい。

石本教育長 資料がないところで報告事項はないか。

各課長 報告事項なし。

石本教育長 部長以下、各課長から報告があったが、これについて質問等あるか。

質疑応答

藤本委員 先ほど、旭分室の方から体操クラブの位置づけについての話があった。教育長の報告の中に10月13日（火）に石見地区中学新人体操大会があり、教育長と一緒に私も開会式に出席し競技を観た。私は体操については素人であるが、私から見ても実力の違いが分かった。結果報告の時、総合で1位になった子どもは皆9点代、総合で2位だった子どもは8点代、あとの子達は6から7点代の前半位で差があった。総合1位の子は邑智郡石見町の子どもで、聞いたところ実は「なごみ」へ行っているとのことであった。総合2位の子も部活はないが、この「なごみ」へ行っているとのことで、1、2位の子ども2人とも「なごみ」へ行っているという事であった。浜田市内の第一中学校、第三中学校の生徒たちは部活で体操部があるが、なかなか指導が先生も難しいところもあるのだと思うが、かなりの差がついていた。この体操クラブはすごいなと感じ、結果表を見て驚いた。

弥栄のスポーツ大会について、参加人員が減少したという事であった。このことは弥栄に限らず、他の自治区にもそういった傾向はあると思う。私は旭に住んでいるが、旭は全部の地区で運動会を開催しているが昔のような盛り上がりはなくなってきたが、弥栄は運動会をされているか。

森下分室長 自治会単独で行っているところはあるが、全体でというのは近年ない。

藤本委員 全体というのはなかなか大変だろうと思う。自治会単位では。

森下分室長 自治会といっても、旭のように公民館単位や連自治会単位

はなく、本当に単独の自治会が行っているところはある。昔は、学校の校庭を使用したり、杵束の憩いの家と福祉センター辺りを使用して行っていたが、だんだんと縮小され、種目も 100メートル競走も行っていたが、あまり足腰を使わない競技になった。弥栄の体育協会でもその辺りも今後考えていかないと、計画をしても年々参加チームが減ってくるのではないかと議論もしている。現在運動会を行っているのは1集落のみである。

藤本委員

どちらが良いという話ではないが、運動会は運動会で行い、これはこれでと行くと出る人間は同じであるので厳しいところがあるかと思う。旭は公民館単位で運動会を行っているが、盛り上がっているかと言えばあまり盛り上がっていないが一つの行事であり、コミュニティだという位置づけで参加している。最近ラジオ体操の時に、出てきた人に点数を与え、それを総合得点に加えるなど工夫をしている。

森下分室長  
宇津委員

また、持ち帰り皆さんと協議をしていきたい。

旭の方から話があった、山桜の植樹はとても良い取組であり、子どもたちも自然に触れる良い機会であったと思う。私がある中学校で務めていたときに、学校林という形で桜を植え、毎年子どもたちを下刈りに連れて行った。1年放置をすると大変な状況が生まれて来る。計画的にある程度予測を立て取り組まれてはどうかと思う。手を抜くと小学生では大変なことになると思う。地域の大人が関わるという様な予定をしておられるのか。

栗栖分室長

まだ全く計画を立てていないがご指摘の通りだと思う。今市小学校はみどりの少年団を結成しており、その取組が県から最優秀賞をいただいている。そういったお話をするのは今がチャンスであると思う。保護者はもちろんであるが、地域の方も一緒にやらなければならないと思う。植樹をした場所だけではなく、他にも草を刈らなければならない場所が出てきているので話を出していきたい。

宇津委員

なごみ体操クラブについて、前田さんという素晴らしい方に来ていただいたお陰で、子ども達が体操を好きになり、しかも上手になり素晴らしいことだと思う。藤本委員からも話があったように、先日、小学校の体操大会で今市小の子ども達の演技は全然違っていた。明らかに違う。それはやはり、こういった良い指導者についてもらって手ほどきを受けている事が最大だと思う。小学校、中学校にも体操を専門にやっていた指導者はお

栗栖分室長

られるが、なかなかここまでにはならない。とても良い指導をされるのだと思う。これが発展していくには、前田さんご夫婦だけに頼ると負担が大きくなりすぎるだろうと思われる。浜田市体操連盟、島根県の体操協会の方まで話が行くとサポートが出来るのではないか、体制が整うのではないかと気がする。

今回、こういった状況にあるという報告をしたのだが、実は、言っているのかどうか分からないが、写真にある 12 メートルのトランポリンは前田さんの自腹である。100 万円以上するらしい。指導をする方も、それくらいの意気込みで行っておられるので、せめてしっかりと位置づけをしなければならないのではないかとということで話をした。この体育館は、現在普通財産となっているが、位置づけをして話を進めていくのであれば、教育財産にした方が良いのかどうか等も検討を要するのではないと思う。浜田高校には体操部があるが、旭中学校、金城中学校にはクラブもない。完全に部にすることは難しいこともあるかもしれないが、なんらかの形でその 3 年間で空白になるような事がないような取組が出来ないかと思い、お知恵を拝借したく今日報告をさせていただいた。

石本教育長

今すぐこういったような形で位置づけを考えるのではなく、これから相談をしていかなければならないが、社会体育の中で行っておられる位置づけがあるが、今普通財産だから他の物が使わず占有で器具を出しっぱなしに出来るが、逆に行政財産にして教育委員会が管理をすると誰でも使えるような施設にしなければならないので、かえってそういった面では使いにくくなる。出したり片づけたりなかなかできないし大変であると思う。今、市の教育委員会の中に体育協会事務局があり、そこに指導員がいる。日体大を出て体操を頑張っているが、彼も「なごみ」へ週 3 回行って手伝いをしているということもあるので、「なごみ」は今後もかなり良い成績を上げて来るだろうと思う。先日の小体連体操大会でもマットは特に違っていた。規定自由共にダントツで優勝したのは今市小学校の子であった。鉄棒も素晴らしかった。跳び箱はあまり差の出ない種目であった。いずれにしても検討をしていきたいのでよろしくお願いしたい。

藤本委員

文化振興課の 11 月 22 日の案内もあったが、10 日くらい前の新聞に松江城が国指定を受けたという事で、それにちなんで安来市に富田城跡があるので、松江城に来てもらった方に引き続

いて富田城に行ってもらいたいが、木があってどこにあるか分からないので、立木を伐採するという記事があった。素人ながら浜田城はどうかと思い、ゆうひパークから見たが、浜田城跡はどこにあるか分からなかった。木が生い茂っているだけが原因ではないと思うが、あの位置から見えづらと思った。私は山びこ学級があるので浜田城跡に行く事があるので思うのだが、木が生い茂っている。文化的な財産で置くのであればあの状態で良いが、観光を考えるのであれば立木の伐採の整理をしなければ隠れてしまっていると思う。歴史的な視点に長けている人に意見をいただいたが、あの状態では文化的な価値があると言われても一部の人だけが認めるだけで多くの人に認めてもらうということは難しいので立木の伐採等について考えなければならぬのではとっておられた。この浜田城のあり方を、11月22日の講演会に引き続いて座談会もあるので、そういった事も出るかもしれないが、そういった視点も必要かと思った。

渡邊課長

木が生い茂って見えにくいという事であるが、平成31年の開府400年に向けて検討中ではあるが、浜田城整備を行う事で進んでいる。環境整備と言っても、石垣の整備、本丸の下の護国神社があるところを歩きやすくしたり、天守台からの展望が悪いということで伐採も予定に入れている。ただ県の指定地であり、行うにも県の許可が必要であるがなるべく展望が良くなるような形で計画をしている。今度の講演会でそういった事も出て来るかもしれないが、まだ検討中なのであまり出ないかもしれない。

石本教育長

文化財の指定地域になっているので、木を一本切るのに届けがいている。そして、一本切ったら原則的に一本植えなければならないとある。岡山の津山に城があり、そこもうっそうとしており木を切られた。方法を津山市が詳しく知っておられるので指導をいただく。なかなか大変だということである。

座談会当日に配られる資料があるが、コンピューターグラフィックで作った城の復元の資料があり、大変素晴らしい仕上がりとなっている。是非当日来場いただきご覧いただきたい。何パターンもあり、ゆうひパークの方から城を見て山の上に城が建っていたりというコンピューターグラフィックスが見られる。

宇津委員

前半の講演会に引き続いて座談会とあるが、その座談会に出席すればその資料がもらえるか。

渡邊課長	そうである。講演会とシンポジウムの間でその DVD で紹介を行う。
石本教育長 各委員	その他質問はあるか。 特になし。

#### 4 その他

##### (1) 浜田市立公民館職員に対するヒアリング調査の実施について（報告）（資料 7）

山根課長	<p>今月、公民館にヒアリングというものが行われたが、委員方には情報を事前に報告をしていなかったもので、申し訳けない。</p> <p>今月それぞれの公民館でヒアリングを行った。これは、議会等で今後の公民館をコミュニティーセンターも合わせてどういった方向になるのかという質問が出ていた。それに対して、今年度一杯かけて今後の方向性について検討をしていくという答弁をいただいている。市長部局のまちづくり推進課と生涯学習課で今まで事務的に調査、検討の会議を 3 回重ねている。その一環でまちづくり推進課の方で、現在の公民館の状況を調査、研究をさせて欲しいという事で、全公民館についてシートを作り、事前に配布して記入出来る部分は記入していただき、それに基づいたヒアリングを昨日ぐらいまでのところで、まちづくり推進課と支所の防災自治課の方で、各公民館長、主事に対してヒアリングを行った。時間の都合によっては生涯学習課も同席をして色々と話をつた。コミュニティーセンターというものが、どういった形であるかという定義がなく、資料を添付しているが、県内の 8 市の公民館、あるいはコミュニティーセンターの状況という事で、ほとんどの市において、交流センター、まちづくりセンター、もしくはコミュニティーセンターという形態に移行されつつある。松江市については、公民館で管理運営について公民館運営協議会、浜田市で言う連絡協議会に指定管理をお願いされている。これは公民館ではあるが、民間の方で管理、運営をされている。他については、ほとんどがコミセンであり、江津市も少しずつコミセンに変わってきており、平成 29 年度までには全てがコミセンになると聞いている。これはまだ移行期だと思っており、それぞれの市がどういう状況にあるのかという詳しい調査はしていないが、昨年、雲南市に話を聞いた限りでは、公民館的機能が少なくなり、いわゆる行政的な事務が増え、回していくことが難しい</p>
------	---

と聞いている。資料にあるように公設公営は現在は浜田市のみである。今後の方針を出すにあたって、コミュニティーセンターと位置付けるのであれば、どういった形になってくるか、どういった業務が生じて来るのか、あるいは現在の公民館で行っている業務が仮にコミュニティーセンターとなった場合にはどうしていくのかという事を整理していきたいと考えている。今回の調査は、あくまでも現在おられる公民館職員がどういった印象、考え方をもちか、現在の公民館がどういった状況なのかという事を教えていただきたいという事である。これについては取りまとめをして、情報を報告したいと考えている。

#### 質疑応答

石本教育長

資料7の表の真ん中部分に、公民館職員においてトラブルのリスクがあると指摘しましたが、とあるがこれはどういった意味か。

山根課長

調査票の2枚目に、コミュニティーセンターとはという問いがあるが、実際にコミュニティーセンターがどういう物かという事を知っていないところから出てきているので、恐らくイメージや印象を問うためのものだと思うが、公民館がコミュニティーセンターにすぐ移行するのかといった誤解が生じたケースがあったという事である。

石本教育長  
藤本委員

そういうことか。その他質問があるか。

このことについて、たまたま今市公民館に行った時、主事がこの表を出してこられた。⑪、⑫の部分が私は気になり、コミュニティーセンターがどういうものか知っているかと質問をしたが、自信がなさそうな様子だった。コミュニティーセンターというものがどういうものかおおよその事が分かっていないと、⑪、⑫は記入出来ないのではないかと思った。私よりは公民館の方は視察に行っておられるので、ご存知かもしれないが、具体的にダイレクトにあなたが思うコミュニティーセンターはどれですかと質問をされても、答えられる人がどれくらいおられるかと思う。私は、自分なりのイメージがあっても、なかなかコミュニティーセンターとはどういうものか、しかも公民館とはどこが違うのかという事になると、かなり整理していないと難しいと思う。2年前の平成25年に社会教育委員の会に諮問をして答申が提言という形でもらっているはずである。あの中にも、公民館とコミュニティー

センターの位置づけ的な事が書いてあり、報告書の中では公民館であるべきだという結論であったと思う。ただし、公民館も今までとは違って、まちづくり事業があるので、まちづくりの方に今まで以上に関りを持っていくべきだと提言として書いてあったと思う。まだ、コミュニティーセンターというものは近代的な様な気がするが、どこがどう違うのかという事を公民館の方に理解をしてもらわないといけないし、我々も共通に理解をしないといけないと思う。一覧表を見ると他市の状況が分かるが、他市が行っているからそれが良いという事にはならないと思う。どちらが良いという事は私も今の段階では申し上げられないが、少なくとも、社会教育委員の提言にあることは、今の段階では重きを置くべきではと思う。

石本教育長  
宇津委員

宇津委員、よろしいか。

大田市が悩んでおられた。大田市はまちづくりセンター27、公民館7という状況であるようである。課長の話を書く機会があったが、どうもすっきりしないようなお話に感じた。やはり、社会教育法に基づく、教育の部分、学習の部分を考えれば、教育委員会の関係に位置付けた方が私はすっきりするのではないかと思う。それに加えてまちづくりという視点を設けていく方が一番すっきりするのではないかと私は思う。資料にある地域振興課、自治振興課といったところへウエイトを持っていくと、社会教育法に基づく教育の部分が薄らいでいく可能性があるのではないかという懸念をしている。

石本教育長

言われる通りであると思う。雲南市へ視察に行ったという話が課長からあったが、昔から社会教育を非常に盛んに行っておられるが、公民館をなくし交流センターという形になったとき、社会教育はどうするかということで、必ずその交流センターの中に社会教育専任の職員を2人は残さないと交流センターにすることはまかりならないということで、社会教育が下火にならないような楔を打っておいて移行をしたという話をされていた。その辺のところ、教育委員会が持っていることは素晴らしいものがあるので、市長部局へ行って今と同じようにまちづくりを中心とした社会教育が出来るかと言えば、今の体制そのものが行ってしまわないとそれは無理なのかなど。いずれにしても、今年度末にはある一定の方向性を出すという事である。

藤本委員

今年度末で方向性を出すのであれば、例えばある程度道筋を踏

石本教育長 | んで考えていかなければいけないと思う。公民館の方に、公民館とコミュニティーセンターの違いを理解してもらわなければならない。コミュニティーセンターになるとなれば、名称も変わるので、地域でのまちづくり推進の母体は浜田自治区以外は大概自治会なので、そういったところにも意見を聞かないと唐突に出てきて名称を変更するとなると混乱するのではないかと思う。

石本教育長 | 時間を作って教育委員会の中でも話をしておかなければならないと思う。まちづくり推進課の課長が生涯学習課出身なので、公民館の内容も分かって話を進めてくれている。ただトップの思いもあるので。

各委員 | これについてはよろしいか。  
質問事項なし。

(2) その他  
石本教育長 | その他ところで何かあるか。  
各委員 | 特になし

#### 次回定例会日程

定例会 11月17日(火) 13時30分から 中央図書館2階多目的室

15:17 終了